



神奈川イグレンニュース

<第191号>

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）
発行責任者：専務理事 芝 忠 編集担当：愛賢司
〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センタービル 7F
Tel./FAX 045-228-7331 <http://www.kanagawa-iguren.com>

2018年10月号

イベントのお知らせ

→ 第48回 海老名サロン

日時	平成31年1月18(金) 午後3時より
場所	神奈川中小企業センター6階 大研修室 (JR 関内駅徒歩約3分)
内容	中小企業の持続的発展を目指す会計～上手な資金の作り方～ 「基本編」 講師 佐藤 富夫 (さとう とみお) 氏 中小企業基盤整備機構会計セミナー登録講師 経営士
参加費	3,500円 交流会「とりろう」(関内駅前)

→ 中小企業会計・啓蒙普及セミナー

日時	平成30年11月9日(金) 18:30～21:00
場所	神奈川中小企業センター6階 特別研修室 (JR 関内駅徒歩約3分)
内容	経営に役立つ会計講座 講師：中小企業診断士 青木高志 数字が苦手な人でも 数字が苦手な人でも 大丈夫！ 元中小企業経営者の講師が分かりやすく解説します！
参加費	無料 (定員：15名)

※ どちらのイベントも詳細は最終ページをご覧ください。

皆さんの参加をお待ちしています。

今月のコンテンツ

1. 「中小企業のものづくり～課題と提言～」 横浜国立大学教授 村富洋一
 (第45回海老名サロンでの報告) 2ページ
 2. 宝電機工業見学 報告 3ページ
 3. 川異研通信 5ページ
 4. 閑中閑話..... 6ページ
- 巻末 第48回「海老名サロン」のご案内
 「中小企業会計・啓蒙普及セミナー」のご案内

➔ 「中小企業のものづくり～課題と提言～」

横浜国立大学教授 村富洋一

第45回海老名サロンでの報告 (イグレンニュース 189号掲載の続編)

3. 「中小企業と付き合っ分かったこと」

- ①それぞれの地域で組織化が進み、定期的に情報交換を行っている。
- ②案件ごとに自社で対応できない仕事を回しあうなど、事業連携も活発。
- ③世の中の技術革新について興味があり、講演やセミナーに関心は強い。
- ④新規事業については興味があるが、アクションに伴わない場合が多い。知財や特許について、認識が浅いことが多い。
- ⑤地域の組織化はなされていてコミュニケーションも良いが、将来ビジョンへの展開は弱い。

4. 「中小企業のイノベーションへの意識—新産業創出・新製品開発に対する反応」

- ①何をすればいいかわからない。
- ②我々にできるでしょうか？
- ③新しい仕事はリスクが高くなかなかできない。
- ④今の仕事が忙しいので、新しいことには手が出せない。

5. 「求められる新しい視点」

- ①巨大事業トレンドに影響されない自由な発想で「世界と戦えるものづくり」ができないか。

②世界市場としては1000億円以下（大企業は手を出さない）であるが「世界市場100%近いグローバルニッチトップ」を目指す。—中小企業が主役の分野。

③地域の中小企業の連携は進んでいるが、イノベーション創出への行動が少ない。「社会的意義のある製品コンセプトに向けて議論し行動する環境づくり」が必要。

④経験豊富でやる気のあるシニア、兼業可能な現役技術者も含めた「自由に楽しみながらイノベーションの核を作ることが出来ないか」

6. 「私の提案～まとめ」

①技術的な性能向上の戦いでなく「本当に社会が必要としている潜在ニーズ」は何かを模索する。性能ではなく、コンセプトの勝負で「他にない製品発掘」を目指す。

②他にない製品とは売上高よりもシェア100%を重視したもの。

③アイデア実現の場として地域の試作企業グループに試行錯誤を前提として試作を依頼する。

④試作品が完成したら、「購入型クラウドファンディング（CF）」に応募する。半量産品の場合は、事前に地域の製造会社と交渉しておき、CFが採択されたら製造を発注する。

⑤試作品を使って事業を進めたい企業があれば、その企業に製造販売を移管し、ライセンスを供与する。

⑥海外ではCFによる成功事例は多い。「CFによるリスクの低い開拓により、地域企業と試作、生産、販売の連携ができないか？欧米とは異なる日本的な緩やかな連携組織」はできないか？

（文責 愛）

➔ 宝電機工業(株)見学会 報告



10月11日（木）イグレン会員企業の宝電機工業（株）の見学会を実施しましたので、概要報告します。この見学会は、海外進出が主流の風潮の中で、日本国内でものづくりを維持・発展する事業展開をしている企業の経営戦略等を学び日本のものづくりの在り方を提言する目的で発足した「ものづくり政策研究会」の活動の一環として実施したものです。

宝電機工業(株)見学会

1. 基本データ

所在地	横浜市緑区上山 1-4-2
電話	045-933-2323
従業員	226名
関連企業	137名
創立	1952年

資本金	6050万円
売上	46億円
代表取締役	飯高誠
専務取締役	比佐健士

2. 売り上げ構成比

NEC 関連 40%←80%、その他産業電機 35%、アミューズメント 25%

- 「海外進出せず」先々代創業者の意志 中国に工場あるが、派遣1名のみで、中国内で完結。内需中心で頑張っている。「これしか出来ない人」をなくし、応用が利く人を育てている。中途採用が85% 即戦力態勢 取引先から事業ごと人を移管する場合もある。近年は新卒採用(特に女子)増加。
- 営業・生産・資材調達・検査が事業製品別に一体化している。1個流しづくり、通常の量産態勢と異なる。品質保証部に生産技術が所属し生産管理部門は独立して設けていない。
- 国内営業は、主として人脈に頼っている。展示会等の受注より、客先からの紹介が大半。どんな仕事も「断らない」が基本スタンス。他社がやらない仕事も引き受ける。協力企業が200。通常は30~40。外注先の減少。
- 定年は60才だが、それ以上勤められる。機械加工のいわゆる職工さんは5人程度。高卒者が少なくなってきた、大学進学率が高い。仕事の柱建ては5本目標だが、現在は3本くらい。
- 外国人はいない。若手人材の採用、育成が課題。行政は政策が場当たりのだ。社内技能検定はやっている。量産から試作中心に移って来ている。
- 組立工程は製品が変わる頻度が高いので、組立工程が頻繁に変わる。柔軟なものづくりだ。
- 製品は、高速道路の自動精算機(ETC)、郵便局の自動仕分け機、セガのUFOキャッチャー、スタジオ関連機器、マイクスタンド、自動改札機、高周波電源等々。

「来年4月に来られたら、やっている仕事が大きく変わっていると思います。国内にはまだまだニッチな仕事の需要はあると思う」という飯高社長のお話しは、今後もロボット部門を含め何にでも挑戦するという意欲と自信の表明と感じました。

会社の事業説明から工場見学、そして多くの質問に対しても懇切な説明をいただき、

参加者16名一同大いに感動をいただいた見学会でした。

(報告 芝・愛)

→ 川異研通信

7月定例会

7月12日（木）、7月定例会（暑気払い）を開催した。会員18名、オブザーバー2名の参加者を得た。今回の会場は横浜市にある「初芳鮎」だ。小上がりの座敷には、巨木をそのまま使った柱と丸太テーブル、そして巨大な木彫りの達磨和尚が豪快に迎えてくれた。

菅原会長挨拶のあと、吉田副会長の乾杯発声により開宴した。途中で、小林副会長から10月国内視察会（福岡）の案内、9月定例会と勉強会の案内がなされた。今年度の国内視察会は、「ものづくりの町」北九州市での工場見学と、「インバウンド先進地」である博多の視察を予定している。来る東京オリンピック・パラリンピックに向けた学びも含んでいる。行程をわかりやすく説明し広く参加を呼び掛けた。9月例会については、「働き方」「心身の健康」をテーマに講演が行われる旨が説明された。特に勉強会は、今年度から名称を「分科会」から「勉強会」に改め、対象も従業員や会員以外に広げ、より会員に役立つ講習会を目指し企画していると説明された。

今回は久しぶりに参加する会員、1社複数で参加する会員もあり、盛大な暑気払いとなった。中締めは野見山副会長の力強い一本締めで、猛暑を吹き飛ばす豪快な手締めの音が響いた後散会となった。

7月勉強会

7月5日（木）、午後6時30分より中原市民館にて7月勉強会を開催した。会員8名、和光大学生7名の参加者を得た。

今回は、株式会社モザイクワーク取締役 COO 高橋実氏を講師に迎え「これからの中小・ベンチャー企業の組織づくり～これからの日本に起こること～」というテーマで講演頂いた。

これからの日本は少子高齢化により労働人口が減少し、未曾有の雇用問題に直面することが予想される。この現実を踏まえ、大手企業と中小企業の格差について求人倍率や離職率などのデータで考察、今後の中小企業雇用問題の課題を探った。様々な新規事業と企業人事を経験された講師ならではの、ユニークな視点からの組織改革の話には、参加者一同引き込まれた。中小企業の強みである「機動力」「柔軟性」を活かし、これからの組織づくりに取り組もうという話は非常に興味深かった。その後行われた懇親会では、講師も参加され、膝を交えながらより具体的な事例を伺え、好評を博した勉強会だった。

→ 閑中閑話

日本の代表的企業の所謂不祥事が頻発しています。時系列に関係なく思いつくまま列記すれば、SUBARUの無資格検査員による検査データの改ざん、旭化成建材の杭打ちデータ不正、神戸製鋼者のアルミ・銅・鉄鋼製品の等の検査データ改ざん、三菱マテリアル関連企業の品質不正に関する検査データ改ざん、三菱自動車の燃費試験データ改ざん、タカタの欠陥エアバック、日産自動車の無資格検査員の最終検査、東芝の水増し不正会計、東レ関連子会社の製品検査データの不正改ざん、日立化成の産業用鉛電池の検査データ改ざん、日立の外国人技能実習生の目的外作業従事、そしてKYBと関連子会社による免振・制震装置の検査データ改ざん等々。

いったい日本のものづくりはどうなってしまったのか？多くの論者が多様な観点から原因を論じています。「検査データ改ざん」が目立つのも気になります。

企業の社会的責任（CSR）が喧伝されて時間の経過を重ねているが、単なる謳い文句に過ぎなかったのかという極めて残念な気がします。（愛賢司）

神奈川県異業種連携協議会

交流アドバイザーが詰めております、気軽にご連絡ご相談ください（無料）

【月】	①②③宮川 豊 ④⑤荒 直孝
【火】	①②④⑤児玉 英二 ③愛賢司
【水】	①菊地 ②指方 ③加藤 ④愛 ⑤芝
【木】	①②③④⑤松井 利夫
【金】	①愛賢司 ②指方 順一郎 ③④⑤織方
【土、日、祭日】	休業

神奈川県イグレン事務局

〒231-0015

横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センタービル 7階 インキュベートルーム 703号

T/F 045-228-7331 URL : <http://www.kanagawa-iguren.com>

Mail : iguren@kanagawa-iguren.com

第48回海老名サロン開催要領

開催日時：平成31年1月18日(金) 15:00～17:40

場所：神奈川中小企業センタービル 6F 大研修室
横浜市中区尾上町5-80

プログラム

- 1.資料確認と報告 (15:00～15:15)
- 2.講演 (15:15～17:15)
中小企業の持続的発展を目指す会計
～上手な資金の作り方～ 「基本編」

企業を存続させ続けるためには、企業経営の実態を表す信頼性ある決算書が不可欠です。また、経営者自身が経営状況を的確に把握し、金融の円滑化を図っていくためには、経営方針を利害関係者に伝え、経営情報を開示するなどの環境整備が重要な課題となっています。

本セミナーでは、「適切な会計処理による決算書」を作成することの意義・必要性和、それを実務に活かし、経営力を高めるためのポイント、販売力の大切さについても解説いたします。このセミナーを今後の経営にお役立てください。

講師 佐藤 富夫 (さとう とみお) 氏

中小企業基盤整備機構会計セミナー登録講師
経営士



プロフィール

大阪生まれ。産業能率大学卒業後、数々の法人設立に携わり、顧問等に就任。NPO法人中小企業再生支援副理事長、社団法人日本経営士会神奈川県会長、常任理事、副会長を歴任。現在、企業再生マネジメント、経営アドバイザーとして、中小企業の経営支援、金融支援を通じて地域活性化に取り組む。

受講料：無料

主催：神奈川県異業種連携協議会(海老名サロン)
中小企業基盤整備機構 社団法人日本経営士会

- 3.質疑応答 (17:15～17:40)
- 4.交流会 「とりろう」(関内駅前) 参加費 3,500円

① サロン (出席 欠席) ② 交流会 (出席 欠席)

ご本人以外の出席者方のご芳名・ご職名

※FAX 045-228-7331

参加費無料!

経営に役立つ会計講座

中小企業会計・啓蒙普及セミナー

平成30年11月9日金曜日

18:30~21:00

神奈川中小企業センター6F 特別研修室

数字が苦手な人でも大丈夫!

元中小企業経営者の講師が分かりやすく解説します!

定員:15名 講師:中小企業診断士 青木高志

～ 講座の内容 ～

- | | | |
|------------------|------------------|------------|
| 《基本編》1章 会計の活用とは? | 《応用編》5章 事業計画の策定① | ～重点方針を作る |
| 2章 会計を活用する | 6章 事業計画の策定② | ～売上予算を作る |
| 3章 会計の活かし方① | 7章 事業計画の策定③ | ～利益計画を作る |
| ～資金繰りを安定させる | 8章 事業計画の策定④ | ～資金計画を作り |
| 4章 会計の活かし方② | | シミュレーションする |
| ～業績を共有する | 9章 事業計画を実現する | |
| | 10章 税制改正のポイント | |

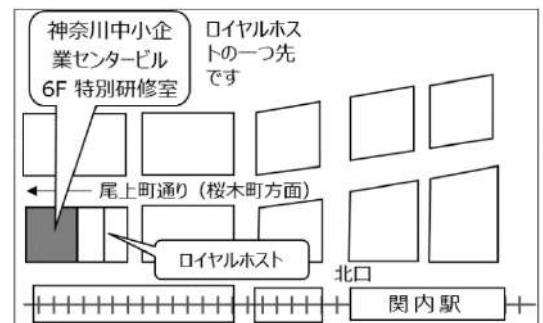
【主催】 NPO 法人 C&S 経営支援協会・独立行政法人 中小企業基盤機構

【場所】 神奈川中小企業センター6F 特別研修室

横浜市中区尾上町5-8 JR 関内駅北口から徒歩5分

【申込先】 NPO 法人 C&S 経営支援協会

FAX:045-845-1566



受講申込書 平成 年 月 日

企業所在地	〒	フリガナ	
	TEL :	企業名	
	FAX :	業種	
フリガナ		資本金	
受講者名		従業員数	
受講者役職			